

再び休館ラ・フォーレ吹屋

日本遺産の宿泊施設として再開への道は

トピックス



指定管理者の事業譲渡で再び休館に――

令和6年6月定例会冒頭、市長から、ラ・フォーレ吹屋の指定管理者が期間満了を待つことなく協定を解除する旨が伝えられました。現在の指定管理者になって、昨年7月下旬の営業を再開してから1年に満たない時期での発表となり、複数の議員が責任の所在や今後について質問を行いました。

「指定管理」は、民間業者やNPOなどを管理者に指定し、施設管理を委任する制度です。民間のノウハウを生かして、経費を削減しつつ質の高いサービスが期待できる一方、議会から運営状況が見えにくいなどの問題点もあります。この記事では、議会で質疑された内容を中心に紹介します。

令和5年に 指定管理者を交代

令和4年12月定例会で、ラ・フォーレ吹屋など2施設の新たな指定管理者として、株式会社下電ホテルと天満屋グループの広告代理店、株式会社ティ・シー・シーとの共同事業体が指定されました。

当時、議会に対しては詳細な説明や資料がなく、各議員から「下電ホテルの経営状況を把握しているのか」、「前指定管理者に対しての配慮が欠けているのではないか」といった質

今後の指定管理制度に注目

下電ホテルは倉敷市の「鷲羽山レストハウス」の指定管理者でもありました。倉敷市と下電ホテルとの協定では、閉業時の解約金の記述があり、中途の協定解除では、約600万円の解約金が発生することになるため、買収会社に残り期間の指定管理を委任することになったとのことでした。高梁市は協定の中で解約金に関する規定を定めていませんでした。

令和6年6月定例会では、議員から市民や吹屋地区の皆さんに市長や担当職員、下電ホテルなどの共同事業体からの休館に至った経緯等の説明を求めましたが、行われていません。今回の事業売却について、下電ホテルは1800万円の赤字が出たこと、前指定管理者からの引き継ぎがなかったこと、職員の採用ができなかったこと

疑が相次ぎました。

執行部は、「選定に問題はない」、「日本遺産認定、旧吹屋小学校オープンによって吹屋の観光や来客環境が大きく変化した。指定管理者選定の原則論に基づいて公募・選定した」との答弁を繰り返しました。

令和4年9月に指定管理者の公募を行った市は選定審議会委員6名（日本観光振興協会、トヨタレンタリース岡山、岡山空港ターミナル、JR西日本、岡山県観光連盟、市議会代表）を指名し、管理能力や誘客戦略などのチェックを行い、申し込みのあった2社の審査結果を発表しました。その結果、下電ホテルなどの共同事業体は139点、前指定管理者の株式会社ラ・フォーレ吹屋は123点、7点となり、全員一致で下電ホテルなどの共同事業体が指定管理者に選定されました。

により経営がうまくいかなかったと説明されたようです。

ラ・フォーレ吹屋の今後について、議会には指定管理者選定の原則論に基づいて再度、公募を行うと執行部から方針が示されています。

議案の提出は市であります。議決を行った責任は市議会にもあり、議会としては、指定管理制度についてしっかりと調査、研究を行い、議論をしていくことが重要と捉えています。

令和5年7月に
営業を再開

共同事業体は「令和5年4月からの営業再開に向けて努力する」としていました。大浴場や調理場の改修などに、高梁市は2300万円を投入して修理しました。また、従業員は地元雇用を条件に募集しましたが、確保できない状況もあり、オープンは令和5年7月25日になりました。しかし防火管理者不在、防災計画未提出の問題なども発覚しました。令和5年11月頃からは、ランチが3日前までの予約制になるなど、当初から苦しい経営状況がうかがえました。

吹屋には、観光協会吹屋支部や店主会などがあります。これらの団体は、観光客誘客、吹屋地区の清掃活動にも協力しており、ラ・フォーレ吹屋周辺の草刈りや樹木伐採をボランティアで行っています。しかし、共同事業体は、地域との一体感がない状況でした。

ラ・フォーレ吹屋の歴史

平成5年(1993年)

旧成羽町が廃校となった吹屋中学校の跡地に第三セクターの農林漁業体験実習館として設立。

平成11年(1999年)

管理運営方式を、民間への業務委託に変更。

令和4年(2022年)10月

指定管理者を2社が争い、新しい指定管理者が指定される。

令和5年(2023年)1月

前指定管理者が撤退して、営業を休止。

令和5年(2023年)7月

新指定管理者が営業を再開。

令和6年(2024年)6月

下電ホテルのホテル事業譲渡。営業を休止。

